

スクールカウンセラー

中谷しいやのつぶやき



2021年6月1日

石川県立小松高等学校教育相談室

「コロナ禍による外出自粛」が2年目です。

ご家族と一緒におられる時間が増えて、特にお子さんについて

今まで気にならなかったところに気がついた事もあったのではないのでしょうか？

そこで… いわゆる「親として」のお勧め＝普通の人です。完璧な親、なんていません。

★ 思いだして下さい、ご自分が息子さん・娘さんだった頃を ★

いきなりのタイトルですが、いかがでしょうか？

ご自身が高校生だったころの事です。ご自身の親御さんに隠し事ありませんでしたか？

10代後半になり、少しずつ大人の世界を垣間見ることができるようになると「小さな冒険」をしてみたくなるものです。その小さな冒険の積み重ねが積もり積もって大人になっていく過程だと云えるのですが、その小さな冒険の中に自分でも「ひやりとしたりハッとしたりの体験」が少なからずあったりもします。

皆さんはこのような経験を誰に話しましたか？ 多分「親：両親」ではなかったでしょうか？ この人なら話しても大丈夫だ、と思えたのは心を許した友人だったり、信頼できる親以外の大人・年長者だったりしたのではありませんか？

つまり、ご自分の中に一種の「放送コード」というか、「誰々にはどこまで話す」と云う、自分なりの「話しても構わない基準」みたいなものをお持ちだったと思います。

★ 「嘘をつく」のは悪い事でしょうか？ ★

人は嘘をつきます。誰でもです。つかない人はいません。「私はこれまで嘘をついた事なんてない」と云う人がいたとしたら、それ自体が真っ赤な嘘、その人は大ウソつきです。嘘が無ければ小説も映画もアニメも、ドラえもんやちびまる子ちゃんもサザエさんもありません。ポセイドンアドベンチャーもスターウォーズも宇宙戦艦ヤマトもです。小さな幼児の時代から人は嘘をつき始めます。嘘と云うのはいわば「つくりもの＝空想の産物」です。これが如何にも現実にあったように話すのが「嘘」です。嘘がつけるという事は一種かなりの高等な知的作業です。これが出来ないと社会生活が出来ないと申しても過言ではありません。

★ しかし、親としては？ ★

嘘をつくな、と社会規範を示す立場の「親」としては云いたくなります。

或る意味で当然でしょう。だって親ですもの。「責任が」と考えてしまう訳です。

ですが皆さんは高校生時代だけではなく、もっと前から、幼児の頃から嘘についておられました。これも事実です。「何を見逃すか」でしょう。但し犯罪に結びつくようなものは見逃してはなりません。



★ だったら？（実はここからが重要なんです） ★

子どもの嘘は見抜けます。だってこちらは経験者ですから。だから敢えて、にやりと微笑んでみてください。子供はひやりとします。それで十分です。ここで、重要なのは。

どうやって大人になりましたか？ 自分で判断・決断して行動が出来る様になったのは何時ごろからでしたか？ 皆さんのお子さんは高校生です。大人になる練習をしなければなりません。ご自分の高校生時代を思いだして下さい。思いだしていただいて高校生の子どもにとってどんな経験が必要なのか、を考えていただきたいと思います。

その子の得意な事だけではなく、親として見たその子の取柄（これは自分ではわかりにくいものです）も見つけてあげて下さい。短所は裏返せば長所に変わります：例えば「早合点しがち」、は「ちゃんと抑えるところさえ間違わなければ、とても理解が早い」と云う事になります。親の仕事は実はこの部分（経験者として子供を見る：必要ならば注意する。黙って見逃す余裕を持つ。子供の取柄を見つけてあげる）ではないか？

と思いますが、いかがでしょうか？